

令和6年度県政モニターアンケート

ヤングケアラーに関するアンケート調査

子育て支援局子ども福祉課

1. 調査の趣旨

ヤングケアラーに関して、県民の皆様がどのような意識を持っているのかを調査し、今後の施策の推進に役立てる。

2. 調査対象

モニター調査委託事業者に登録されている県内在住者 400人

3. 調査時期

令和6年9月13日～9月17日

4. 調査方法

インターネット

5. 回答者数

400人（回答率 100%）

6. 調査結果

県民の「ヤングケアラー」の認知度や意識を確認し、今後の県民意識の経年比較を行うために、県政モニターの登録者に対する「県政モニター調査」を実施した。サンプリングによる調査のため、回答者の属性ごとの回収割合は母集団の人口構成と異なる。

そのため、県民の意見を適切に反映できるよう、回答者の属性ごとの回収割合を母集団の人口の構成比となるよう重みづけをして集計した。

<参考：重みづけについて>

例えば、①のように母集団の人口構成比と回収割合に差異がある場合、それらを比較して補正率を算出し（②）、男性の回収サンプルであれば「1.25」の重みづけをすることで、全人口に対する割合と同じ構成比にできる（③）。

①母集団と回収数（例）

	母集団の人口及び人口構成比		回収数及び回収割合	
	人口（人）	人口構成比（%）	回収数（人）	回収割合（%）
男性	1,000	50.0	120	40.0
女性	1,000	50.0	180	60.0
合計	2,000	100.0	300	100.0

②補正率（例）

	補正率
男性	1.25
女性	0.83

例：（男性の補正率）＝（母集団の男性の人口構成比）／（男性の回収割合）

③補正後の回収数（例）

	回収数（人）	回収割合（％）
男性	150	50.0
女性	150	50.0
合計	300	100.0

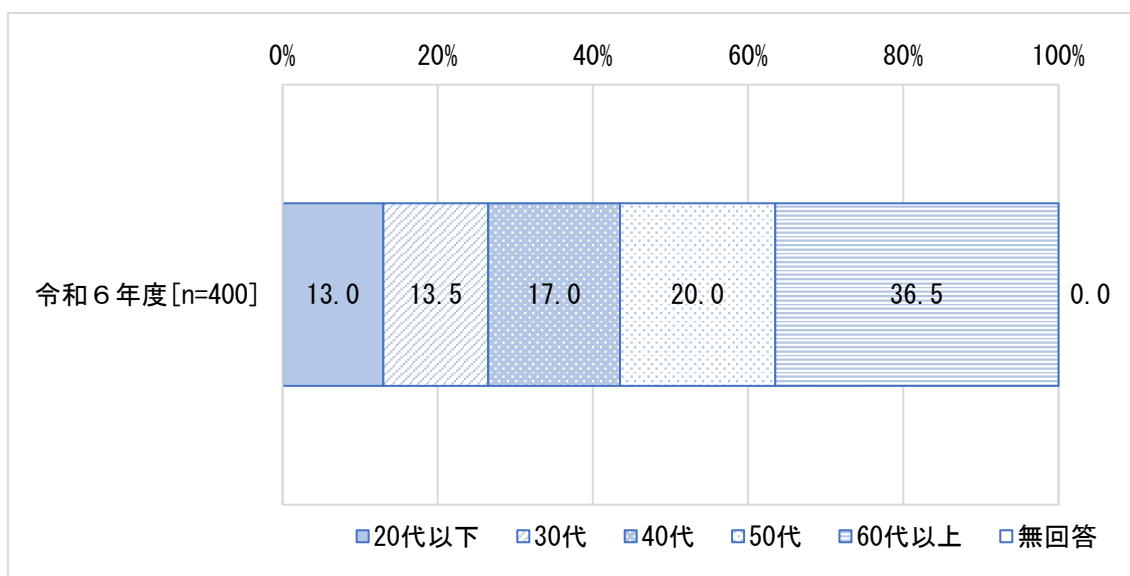
例：（男性の補正後の回収数）＝（男性の回収数）×（男性の補正率）

・重みづけの際の値は整数ではないため、重みづけ後の標本数は小数点以下を四捨五入した値となっている。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。

（１）年代

年代は、「60代以上」が36.5%で最も高く、次いで「50代」（20.0%）、「40代」（17.0%）となっている。

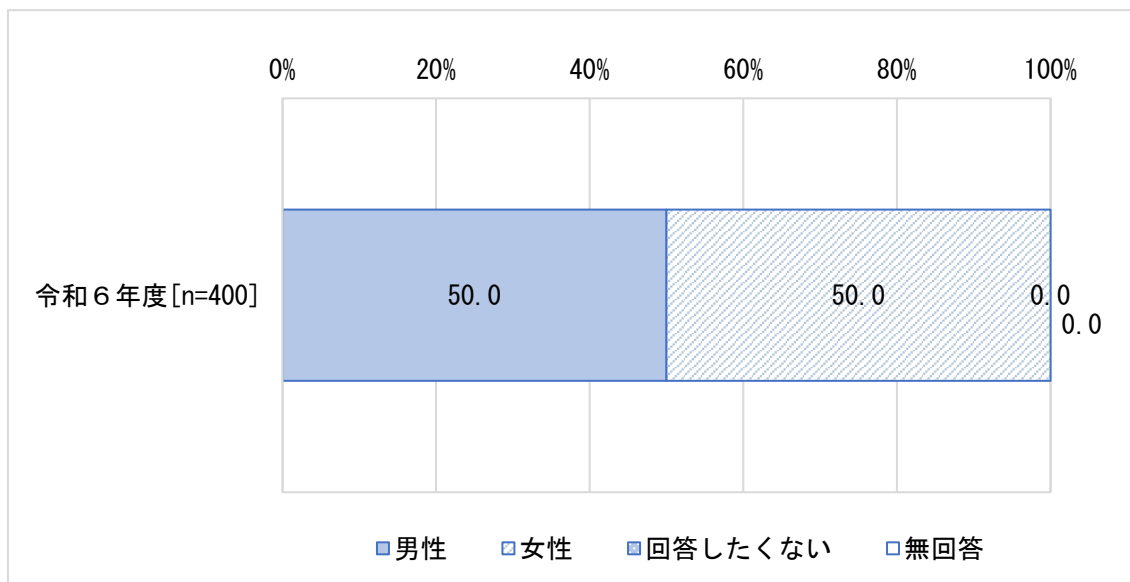
図表 1 年代



(2) 性別

性別は、「男性」「女性」と同じ割合である。

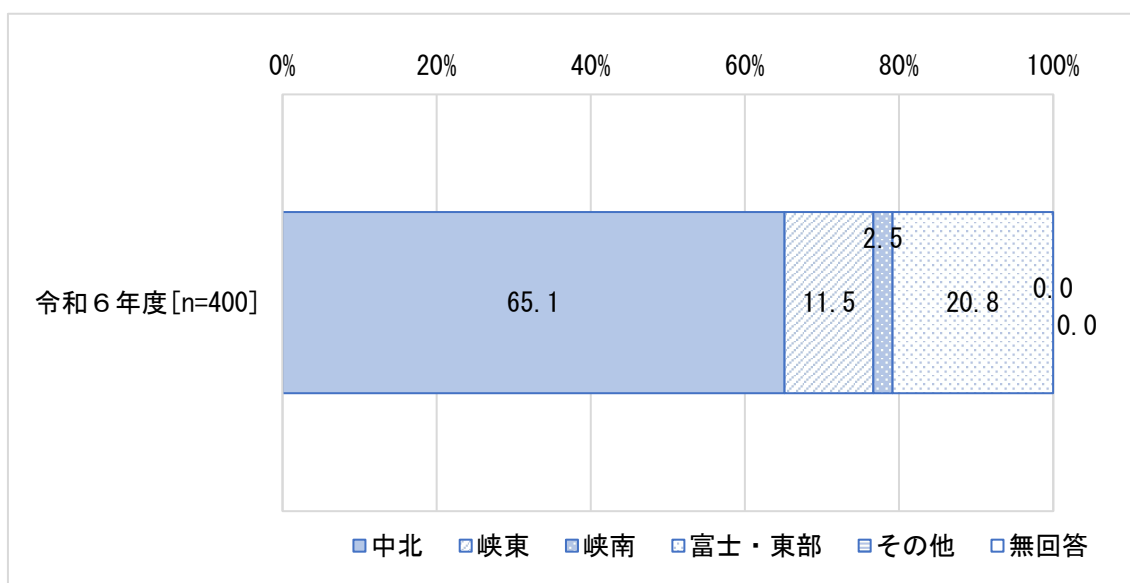
図表 2 性別



(3) 居住地

居住圏域は、「中北」が 65.1%と最も高く、次いで「富士・東部」(20.8%)、「峡東」(11.5%)となっている。

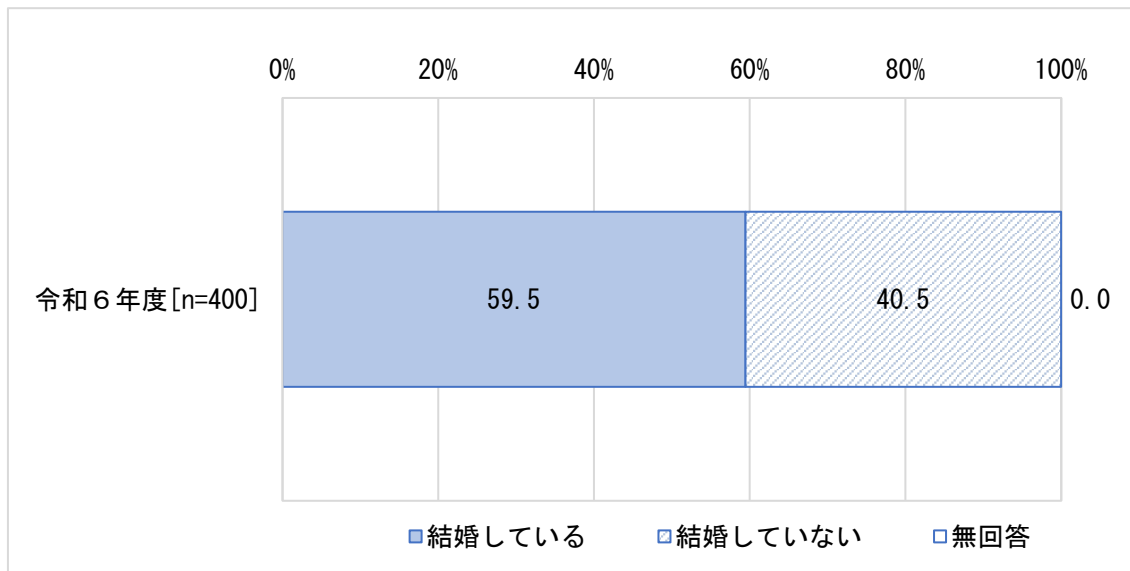
図表 3 居住圏域



(4) 婚姻状況

婚姻状況は、「結婚している」が59.5%、「結婚していない」が40.5%となっている。

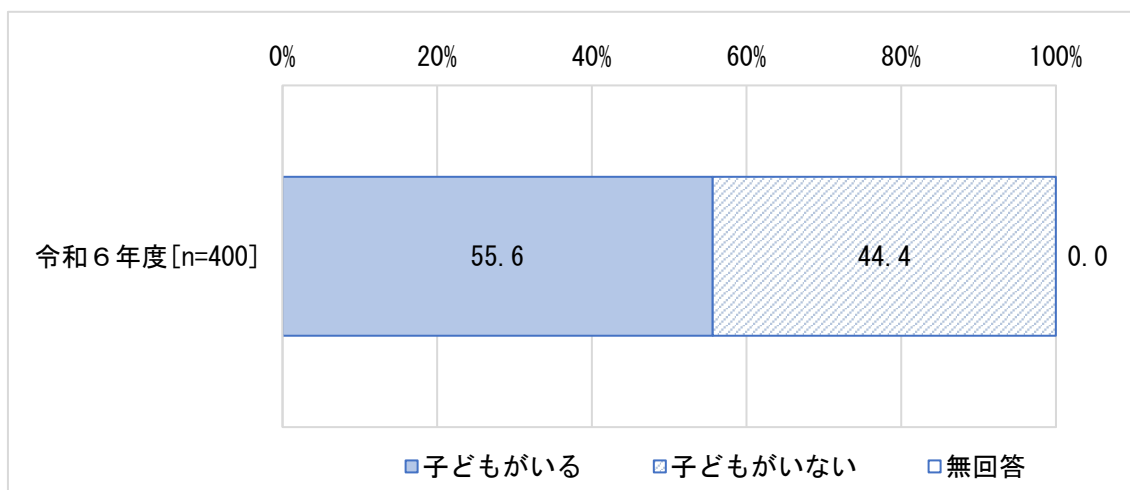
図表 4 婚姻状況



(5) 子どもの有無

子どもの有無は、「子どもがいる」が55.6%となっている。

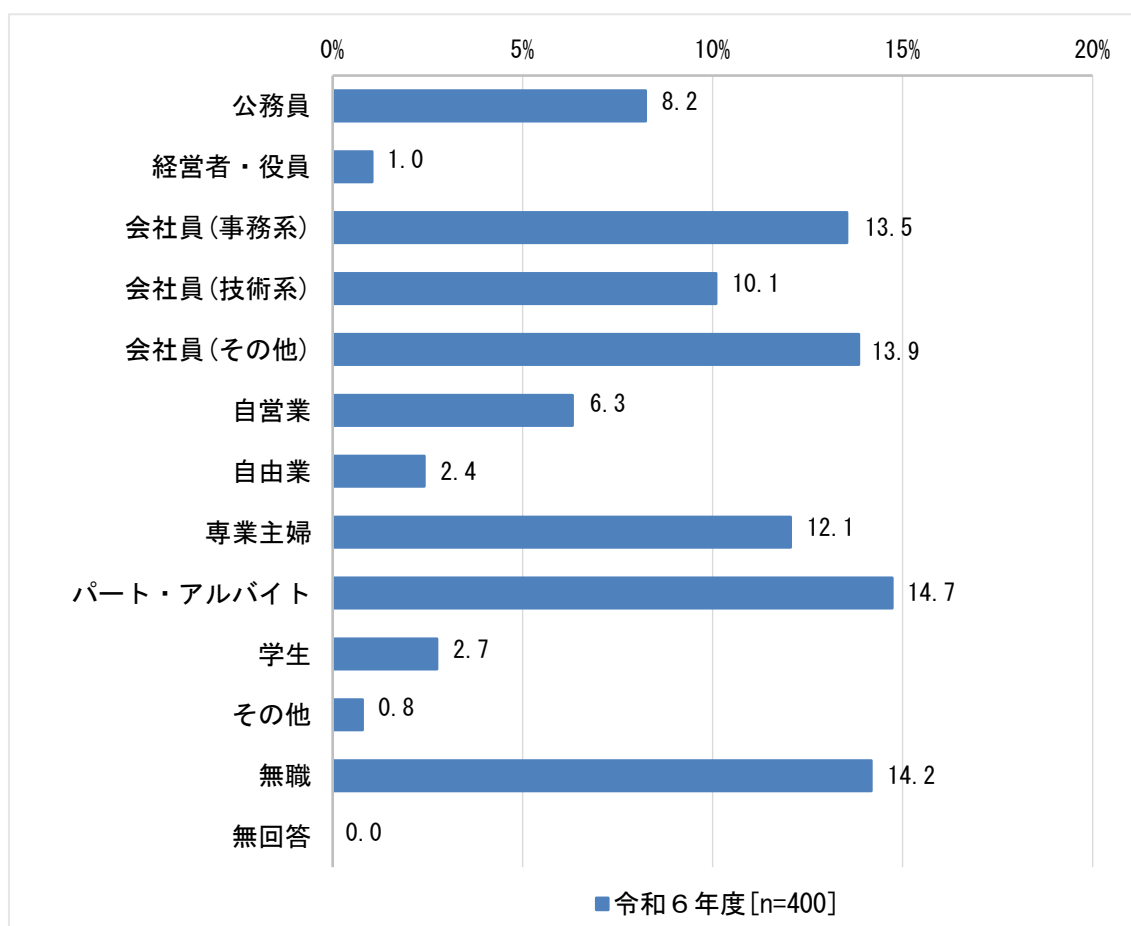
図表 5 子どもの有無



(6) 職業

職業は、「パート・アルバイト」が14.7%で最も高く、次いで「無職」(14.2%)、「会社員(その他)」(13.9%)、「会社員(事務系)」(13.5%)となっている。

図表 6 職業

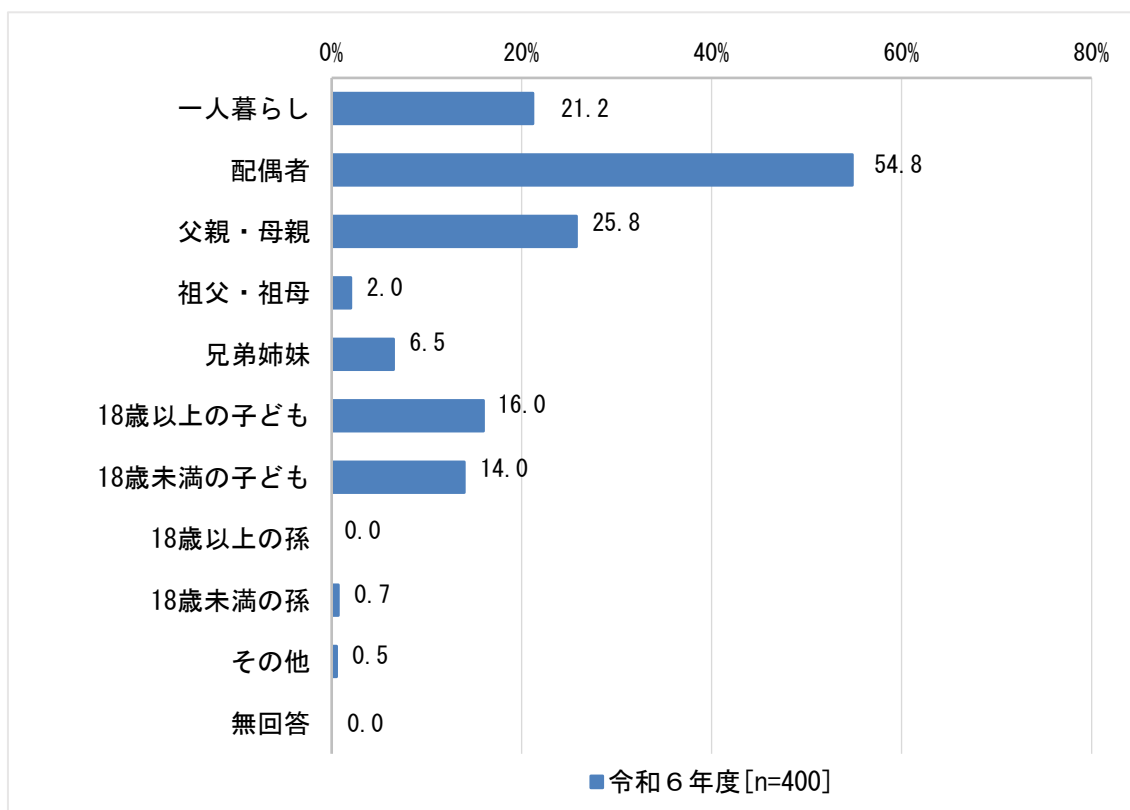


（７）同居家族

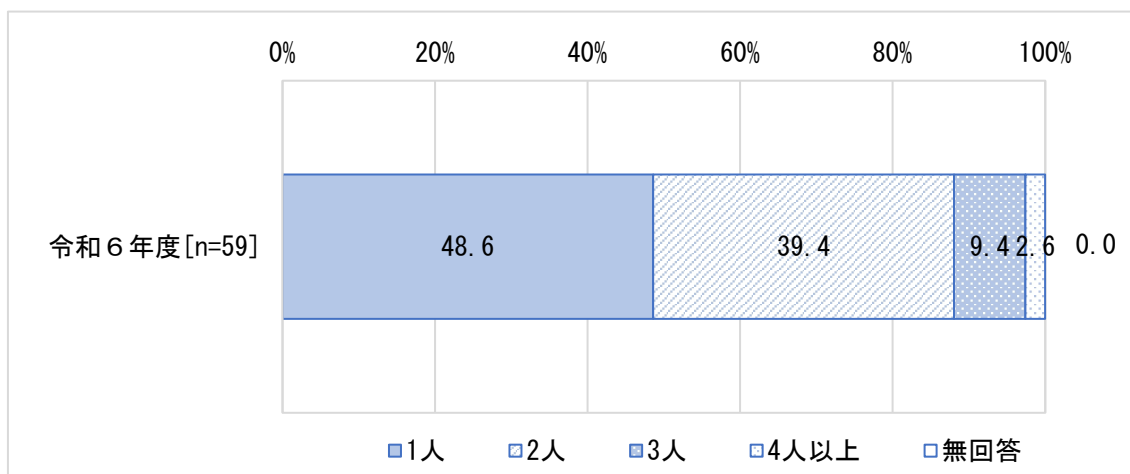
現在一緒に住んでいる家族は、「配偶者」が 54.8%と最も高く、次いで「父親・母親」(25.8%)、「一人暮らし」(21.2%)、「18 歳以上の子ども」(16.0%)、「18 歳未満の子ども」(14.0%) となっている。

「18 歳未満の子ども・孫」の人数は「1 人」が 48.6%で最も高く、次いで「2 人」が 39.4%となっている。

図表 7 同居家族（複数回答）



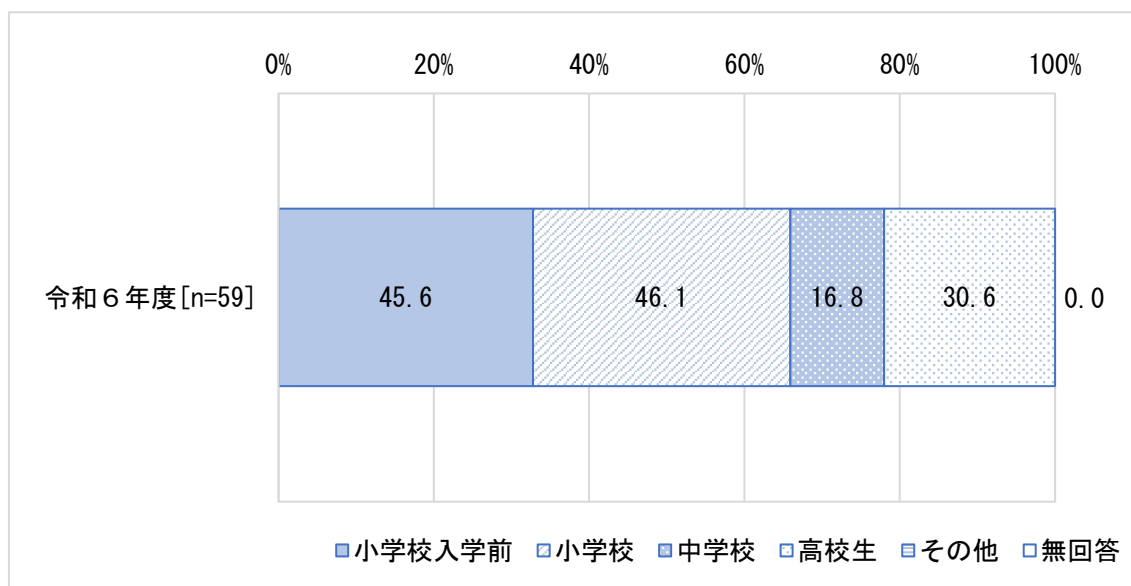
図表 8 18 歳未満の子ども・孫の人数



（８）同居している 18 歳未満の子ども・孫の年代

現在一緒に住んでいる家族に「18 歳未満の子ども」「18 歳未満の孫」がいると回答した方の、子どもや孫の年代は、「小学校」が 46.1%と最も高く、次いで「小学校入学前」が 45.6%、「高校生」が 30.6%、「中学校」が 16.8%となっている。

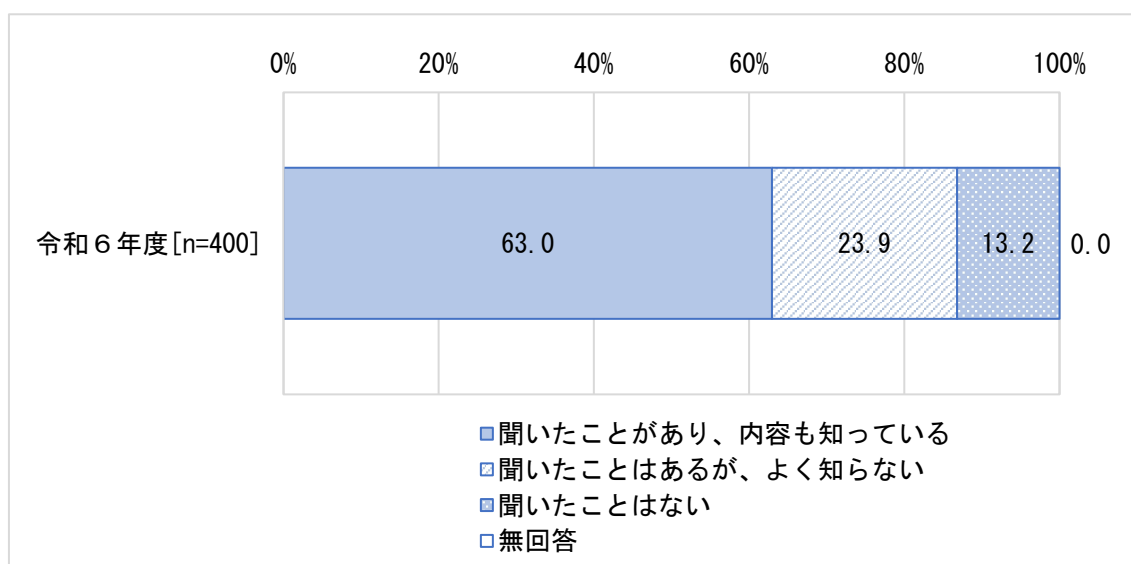
図表 9 18 歳未満の子ども・孫の年代



(9)「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」が63.0%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が23.9%で、言葉を聞いたことがある人は8割を超えている。

図表 10 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況



年代別では、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、60代以上が66.7%で最も高く、次いで30代が64.2%、20代が63.5%となっている。

一方、「聞いたことはない」は20代以下が23.1%と最も高くなっている。

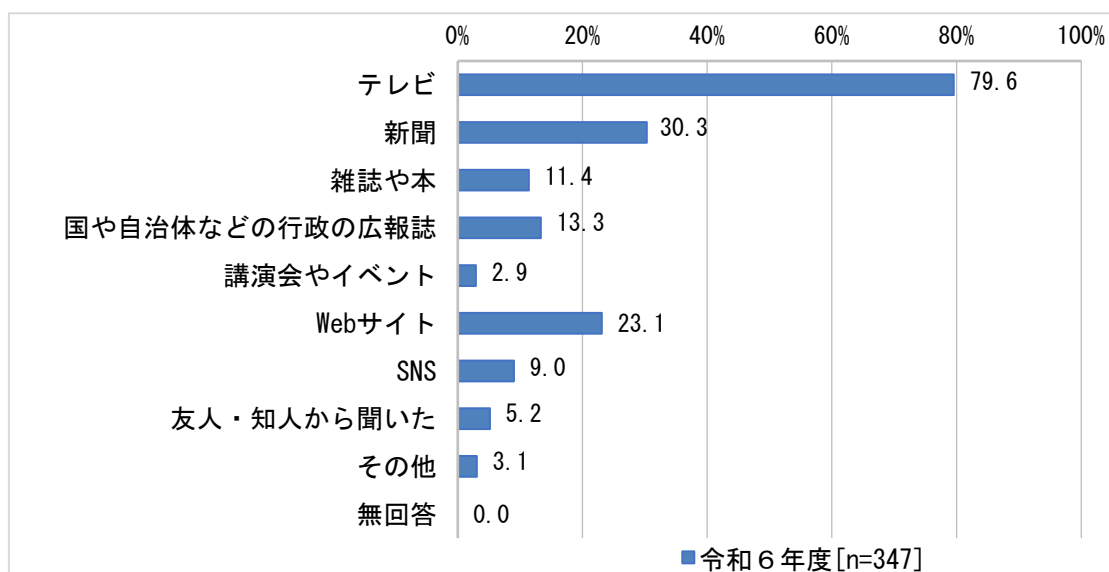
図表 11 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況：年代別

		(%)				
		全体 (n=)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはある が、よく知らない	聞いたことはない	無回答
年代別	20代以下	52	63.5	13.5	23.1	0.0
	30代	54	64.2	23.2	12.6	0.0
	40代	68	55.5	27.0	17.6	0.0
	50代	80	61.3	25.0	13.7	0.0
	60代以上	146	66.7	25.8	7.6	0.0

(10)「ヤングケアラー」という言葉の認知経路

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方に、「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか聞いたところ、「テレビ」が79.6%と最も高く、次いで「新聞」(30.3%)、「web サイト」(23.1%)、「国や自治体などの行政の広報誌」(13.3%)となっている。

図表 12 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路（複数回答）



年代別にみると、どの年代でも「テレビ」が最も高く、6～8割となっている。次いで20代以下では、「SNS」(30.0%)、30代以上では「新聞」(各22.0%、28.0%、30.5%、40.2%)が高くなっている。

図表 13 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路：年代別（複数回答）

(%)

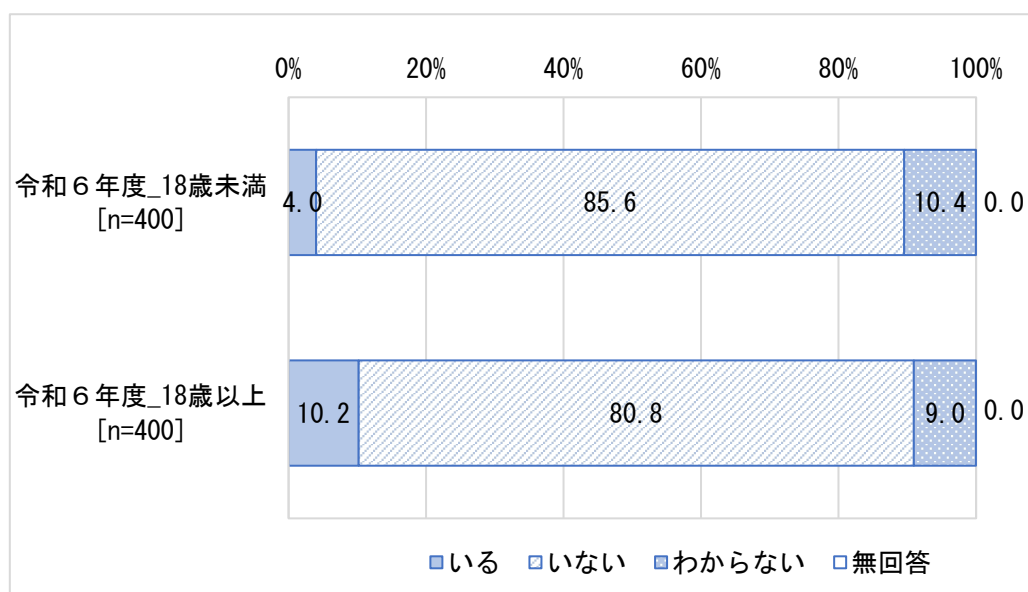
		全体 (n=)	テレビ	新聞	雑誌や 本の	国や自治体 などの行政の 広報誌	ト 講演会やイ ベ	Web サイ ト	SNS	聞 いた	友 人・ 知 人 か ら	そ の 他	無 回 答
令和 6 年 度	20代以下	40	65.0	10.0	12.5	10.0	5.0	22.5	30.0	5.0	10.0	0.0	
	30代	47	83.8	22.0	8.6	12.3	3.4	17.1	12.7	3.1	2.1	0.0	
	40代	56	76.6	28.0	7.1	6.9	2.4	25.4	6.9	4.9	4.5	0.0	
	50代	69	81.1	30.5	14.6	8.8	4.3	26.0	8.8	5.9	1.4	0.0	
	60代以上	135	82.8	40.2	12.3	19.7	1.6	23.0	2.5	5.7	1.6	0.0	

(11)「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無

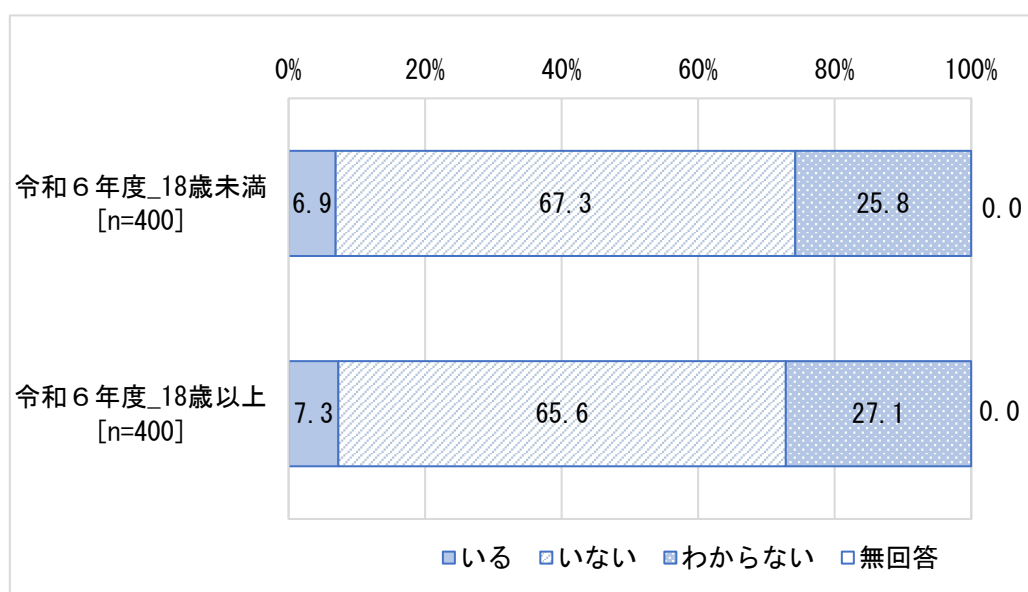
家族・親族や、友人・知人やその子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいるか聞いたところ、家族・親族で「いる」は18歳未満で4.0%、18歳以上では10.2%となっている。

友人・知人やその子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者で「いる」は18歳未満で6.9%、18歳以上では7.3%となっている。

図表 14 家族・親族で「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無



図表 15 友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者で「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無



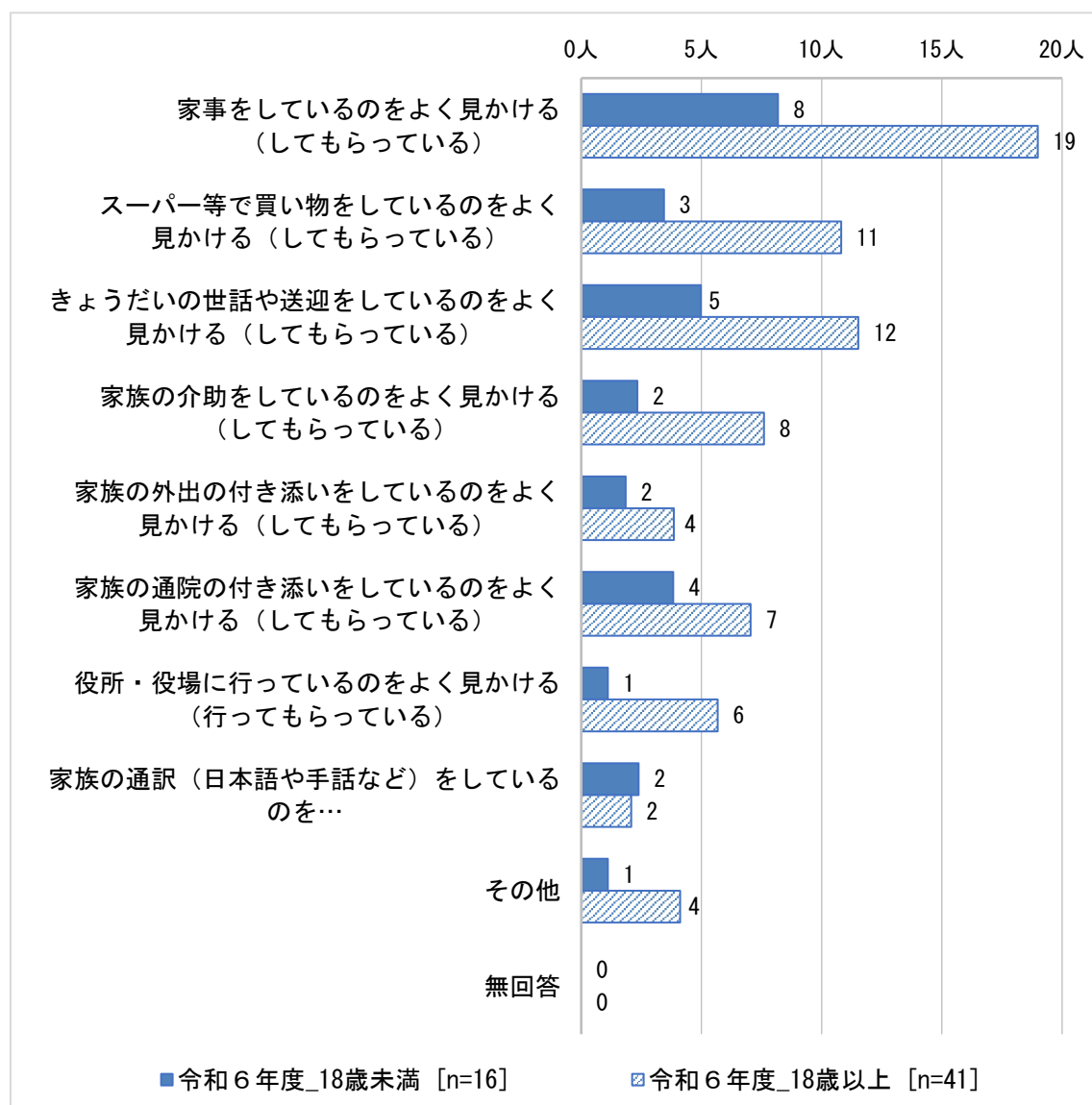
(12)「ヤングケアラー」と思った理由

身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいると回答した人に、なぜその子どもが「ヤングケアラー」だと思ったか聞いたところ、親族・家族では18歳未満では「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く8人となっている。

18歳以上でも「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く19人となっており、次いで「きょうだいの世話や送迎をしているのをよく見かける（してもらっている）」(12人)、「スーパー等で買い物をしているのをよく見かける（してもらっている）」(11人)、「家族の介助をしているのをよく見かける（してもらっている）」(8人)、「家族の通院の付き添いをしているのをよく見かける（してもらっている）」(7人)、「役所・役場に行っているのをよく見かける（行ってもらっている）」(6人)となっている。

図表 16 「ヤングケアラー」と思った理由（複数回答）

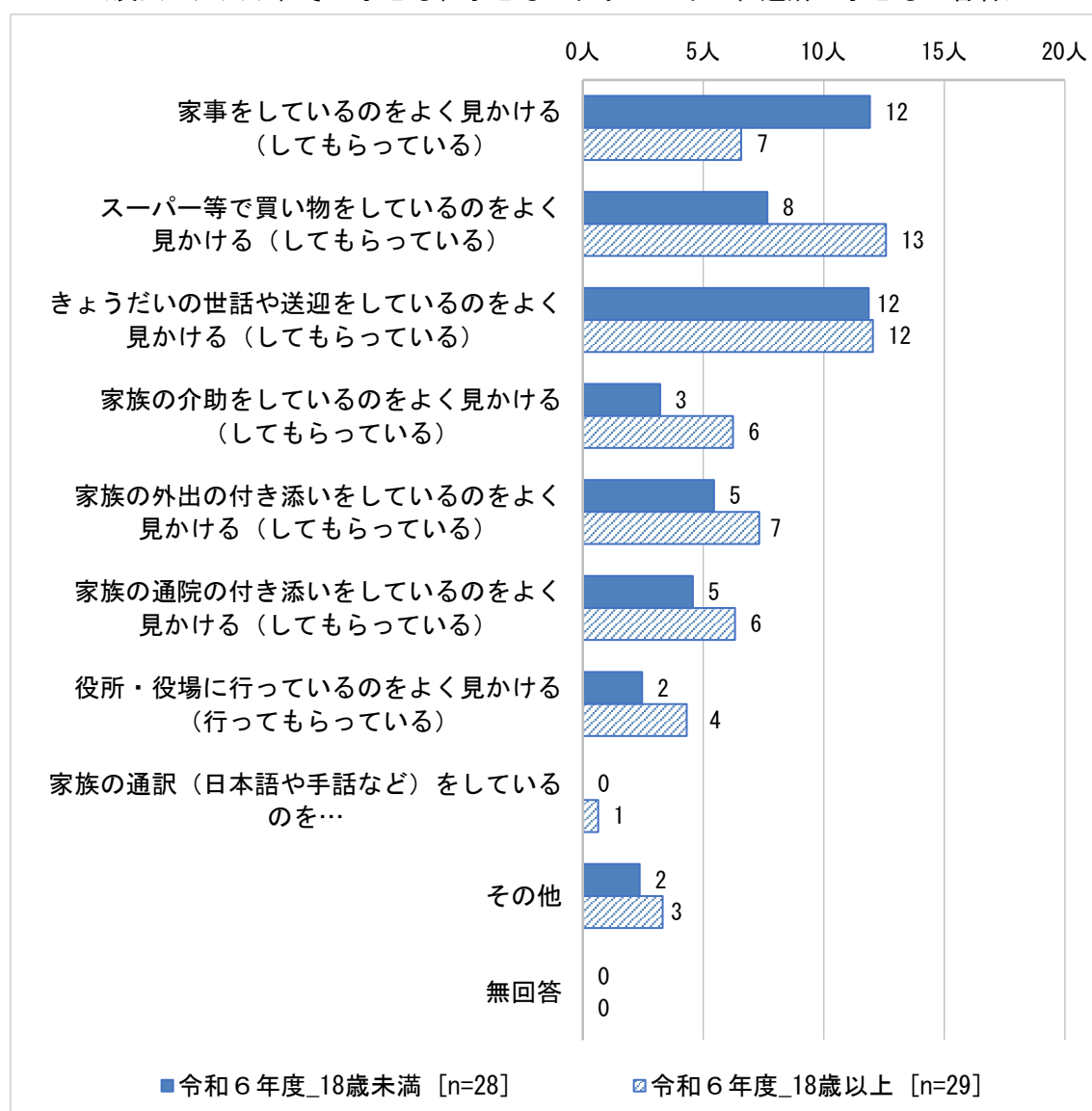
<家族・親族>



友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者については、18歳未満では「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」「きょうだいの世話や送迎をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く各12人となっている。次いで「スーパー等で買い物をしているのをよく見かける（してもらっている）」（8人）となっている。

18歳以上では「スーパー等で買い物をしているのをよく見かける（してもらっている）」が最も高く13人となっている。次いで「きょうだいの世話や送迎をしているのをよく見かける（してもらっている）」（12人）、「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」「家族の外出の付き添いをしているのをよく見かける（してもらっている）」（各7人）となっている。

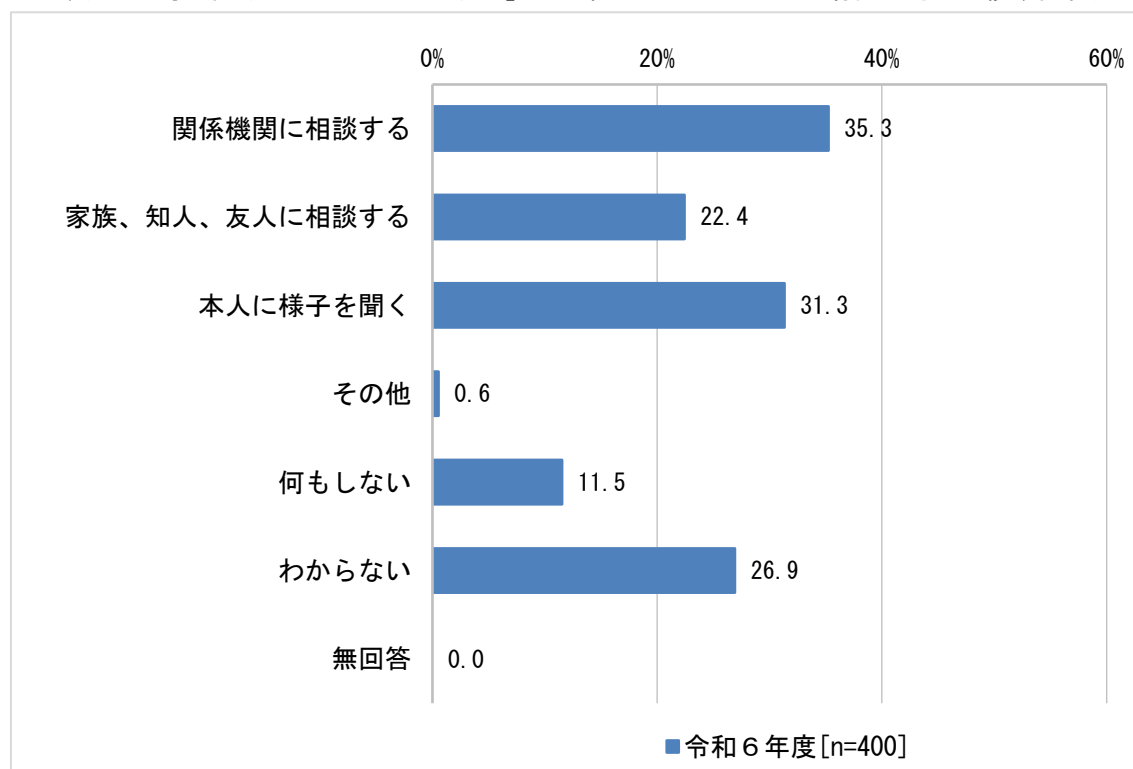
＜友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども・若者＞



（１３）身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応

身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような対応をするか（身の回りに、「ヤングケアラー」と思われる子どもがいない・いるかわからない場合はいたと仮定）聞いたところ、「関係機関に相談する」が35.3%と最も高く、次いで「本人に様子を聞く」(31.3%)、「わからない」(26.9%)「家族、知人、友人に相談する」(22.4%)となっている。

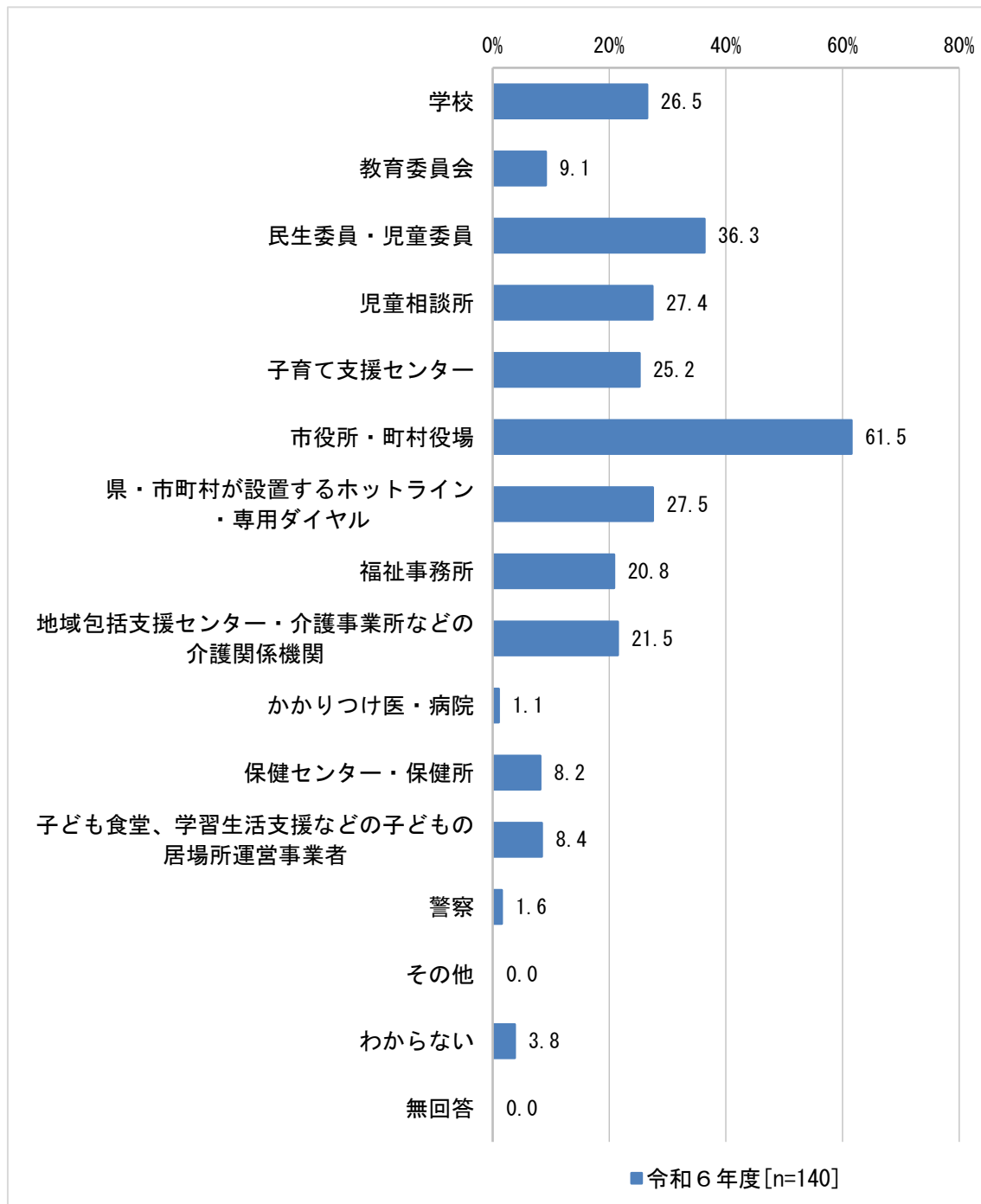
図表 17 身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応（複数回答）



（１４）「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合（いたと仮定した場合も含む）「関係機関に相談する」と回答した方に、どのような機関に相談しようと思うかについては、「市役所・町村役場」が61.5%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員」（36.3%）、「県・市町村が設置するホットライン・専用ダイヤル」（27.5%）、「児童相談所」（27.4%）、「学校」（26.5%）となっている。

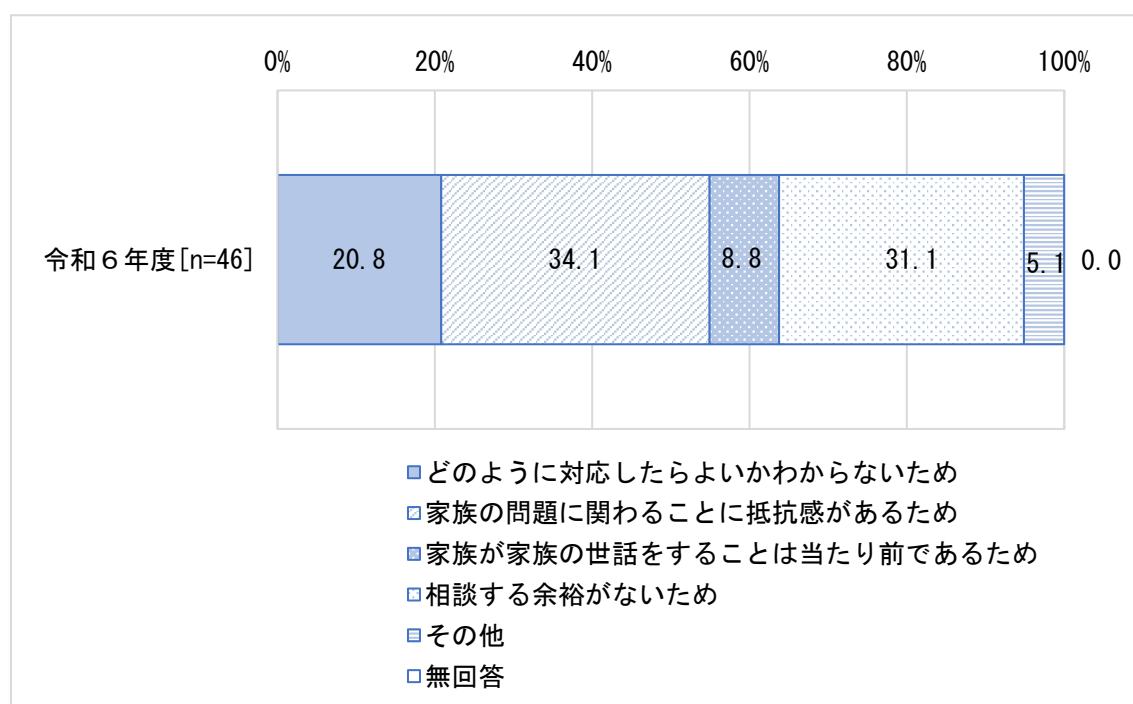
図表 18 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関（複数回答）



(15)「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」主な理由

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合（いたと仮定した場合も含む）「何もしない」と回答した方に、その理由としてもっともあてはまるものを聞いたところ、「家族の問題に関わることに抵抗感があるため」が 34.1%と最も高く、次いで「相談する余裕がないため」が 31.1%、「どのように対応したらよいかわからないため」（20.8%）となっている。

図表 19 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」理由

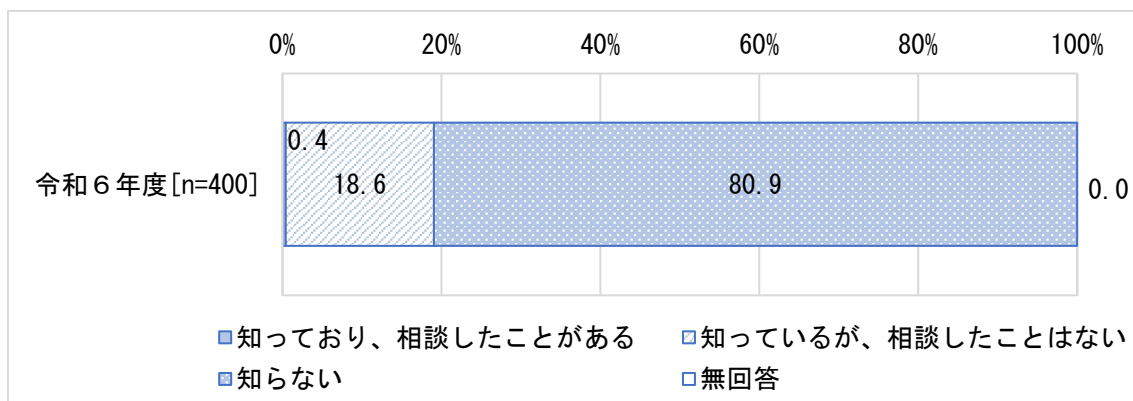


（１６）山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について

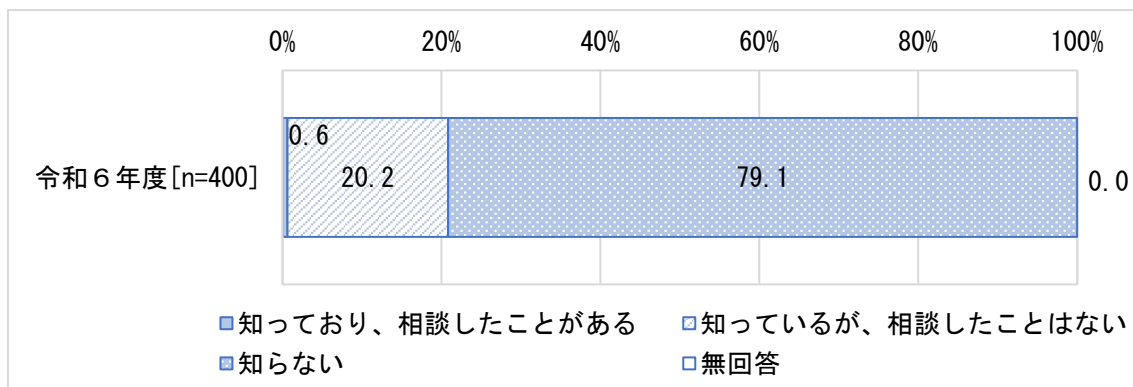
① 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」の認知状況

山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について知っているか聞いたところ、知っている人（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）はどの相談窓口も２割前後となっている。

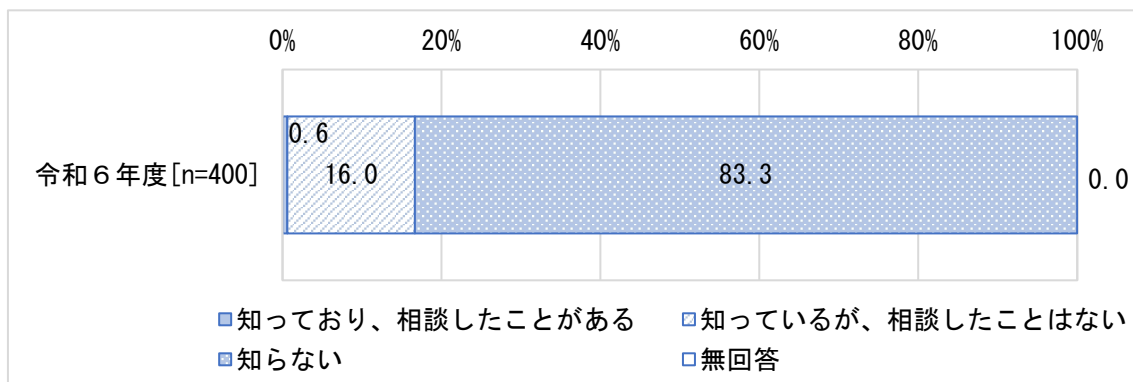
図表 20 24 時間電話相談窓口（0120-189-783、0120-0-78310）の認知状況



図表 21 相談支援センター（山梨県総合教育センター）の認知状況



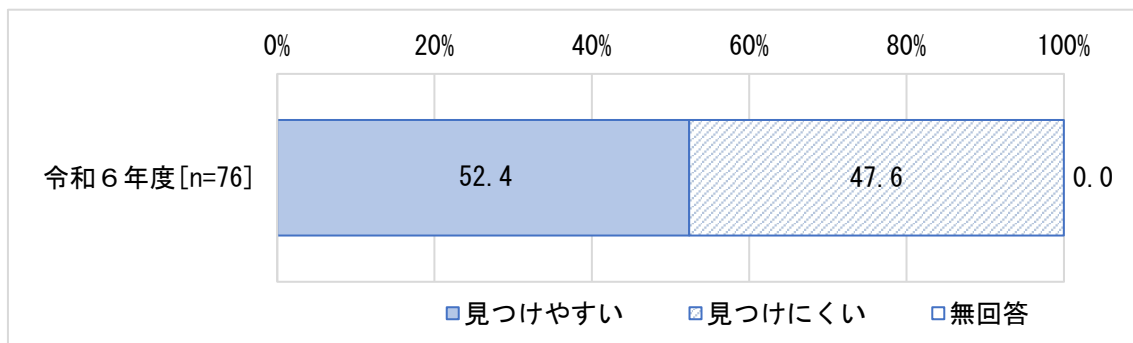
図表 22 SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）の認知状況 ※令和 5 年度のみ



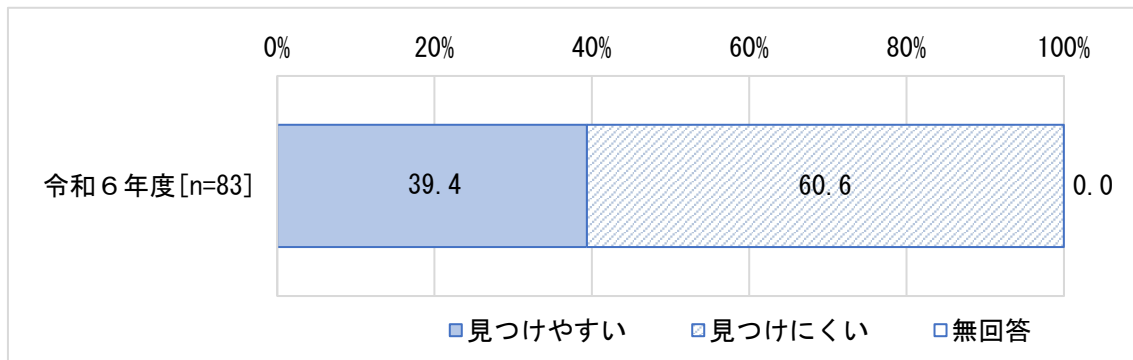
② 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」のを見つけやすさ

山梨県「ヤングケアラー相談窓口」を、「知っており、相談したことがある」「知っているが、相談したことはない」と回答した方に、相談窓口のを見つけやすさについて聞いたところ、24 時間電話相談窓口（0120-189-783、0120-0-78310）では「見つけやすい」が 52.4%、SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）では 52.0%で、5 割以上となっている。相談支援センター（山梨県総合教育センター）は、39.4%と 4 割弱となっている。

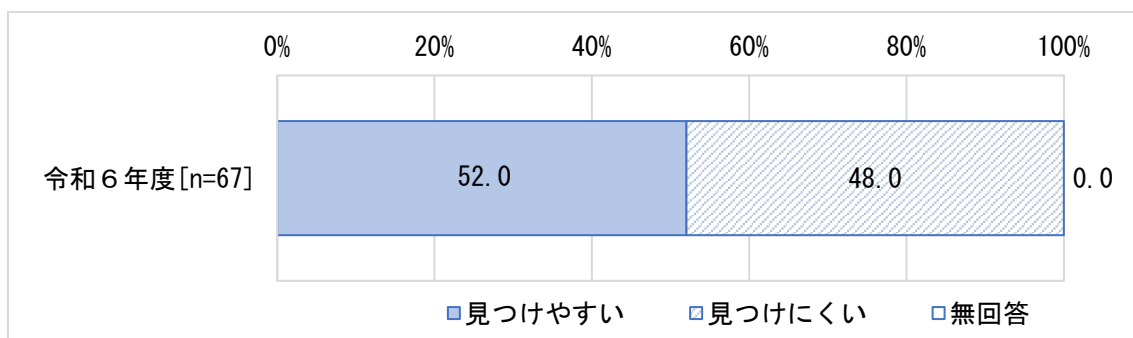
図表 23 24 時間電話相談窓口（0120-189-783、0120-0-78310）の認知状況



図表 24 相談支援センター（山梨県総合教育センター）の認知状況



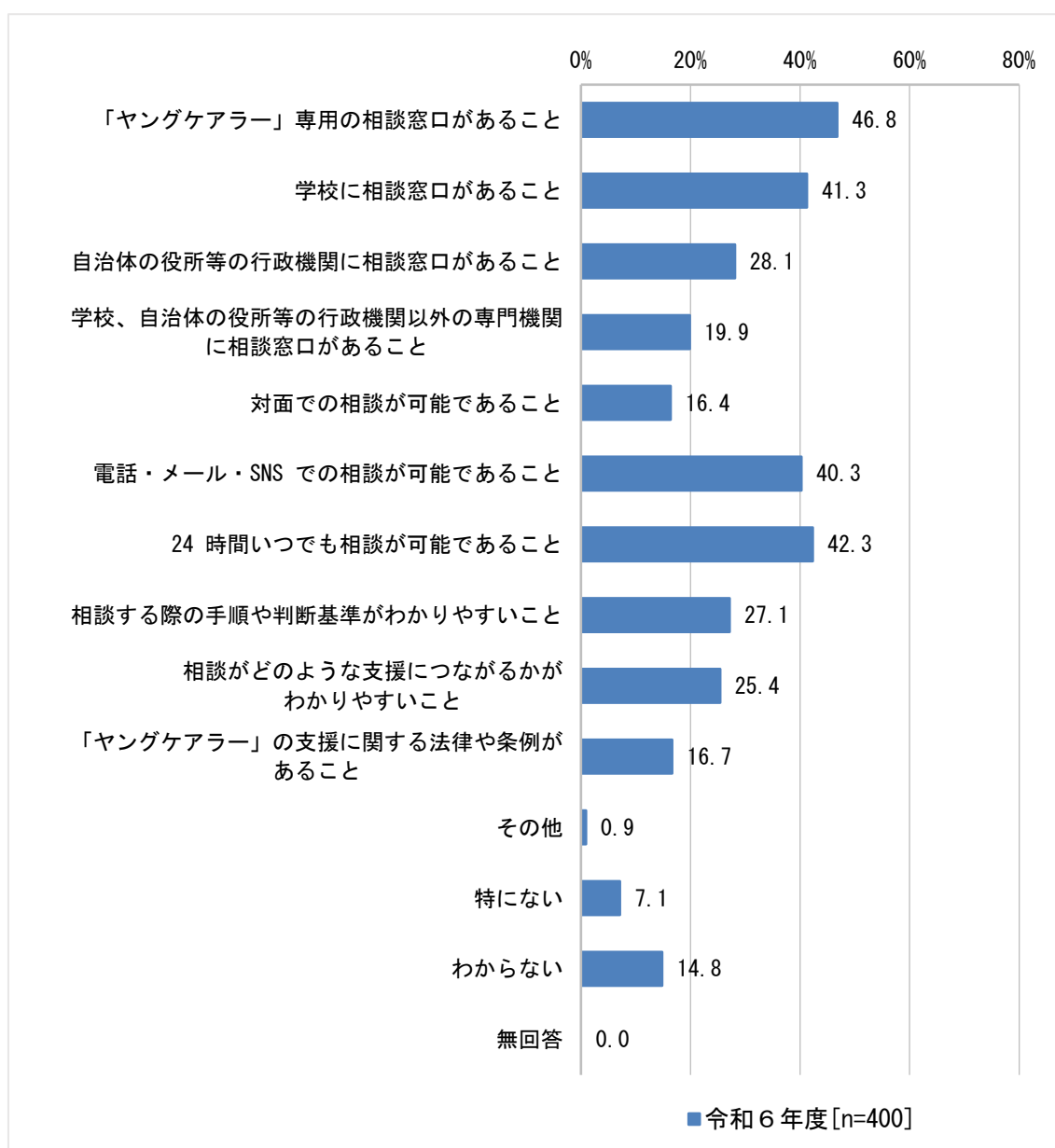
図表 25 SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）の認知状況 ※令和 5 年度のみ



（１７）ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、その子どもにとってどのような仕組みや取組があると相談しやすい環境づくりにつながると思うか聞いたところ、「「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が46.8%と最も高く、次いで、「24時間いつでも相談が可能であること」（42.3%）、「学校に相談窓口があること」（41.3%）となっている。

図表 26 ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援（複数回答）



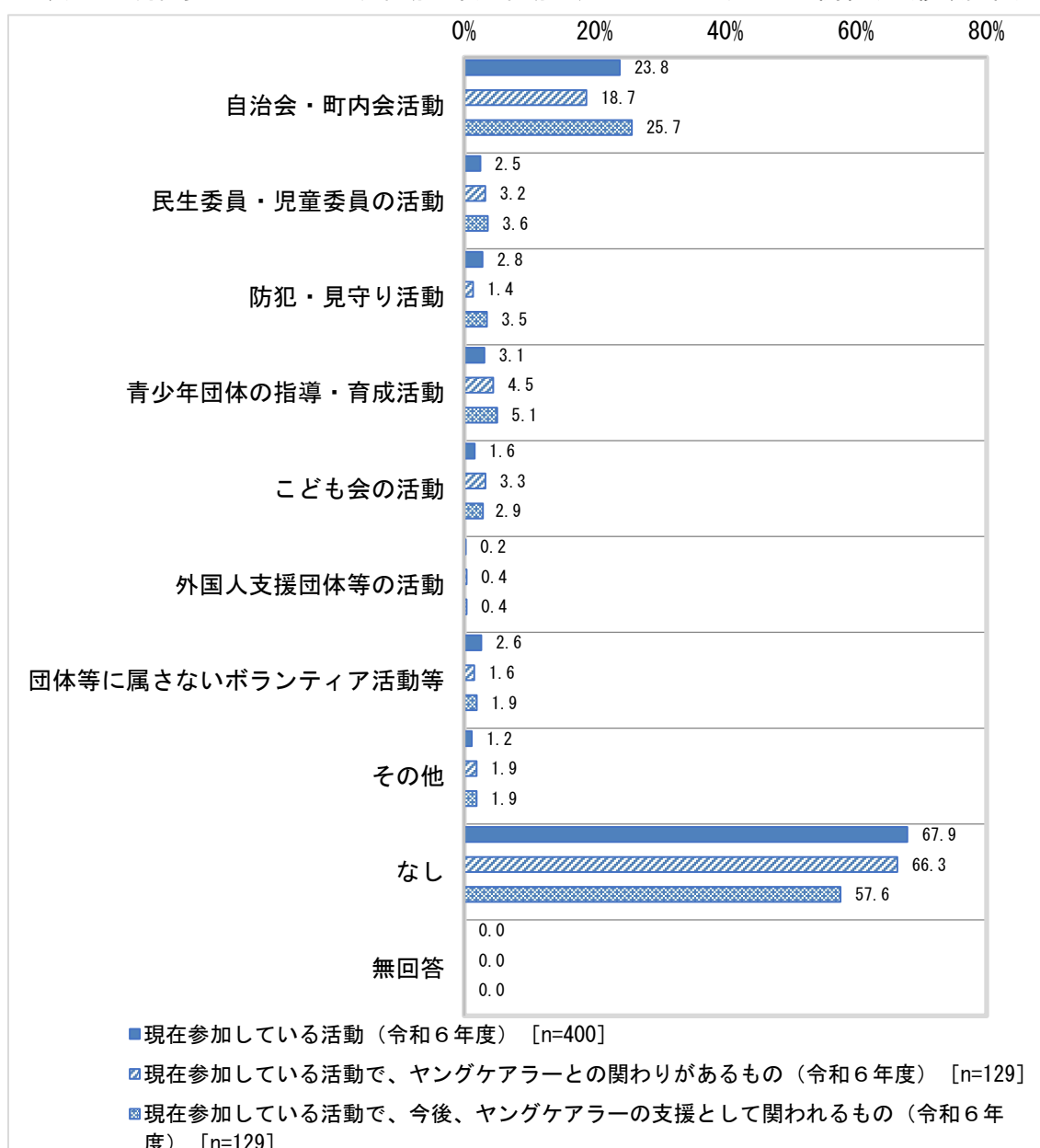
(18) 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり

現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わりについて聞いたところ、現在参加している活動は、「なし」が67.9%と最も高く、次いで「自治会・町内会活動」が23.8%となっている。

現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるものは、「なし」を除くと、「自治会・町内会活動」が18.7%で最も高い。

現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるものは、「なし」を除くと、「自治会・町内会活動」が25.7%と最も高い。

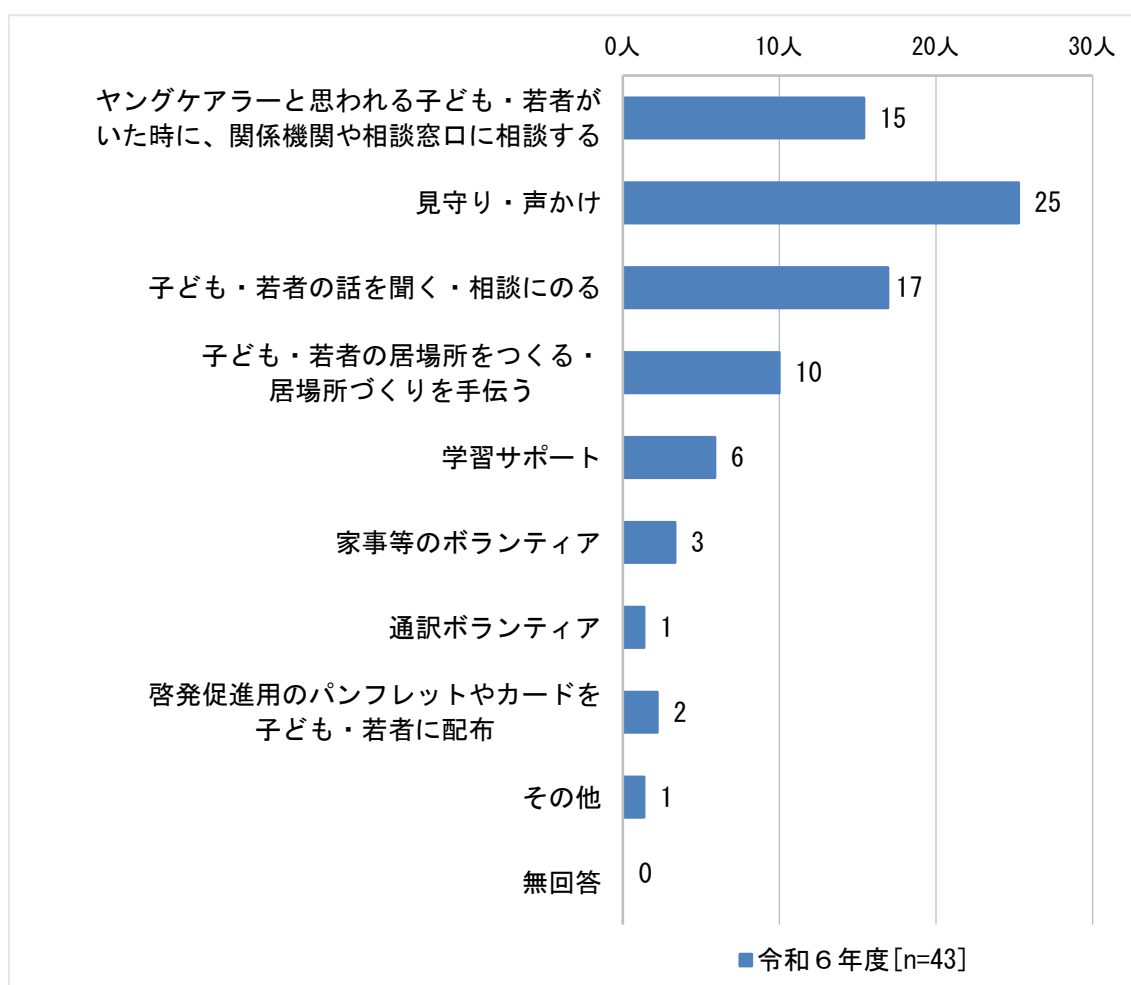
図表 27 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり（複数回答）



（１９）地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方

「現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるもの」があると回答した方に、その活動において、ヤングケアラーに対して、どのような関わりをもっているか聞いたところ、「見守り・声かけ」（25人）、「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」（17人）、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」（15人）が高くなっている。

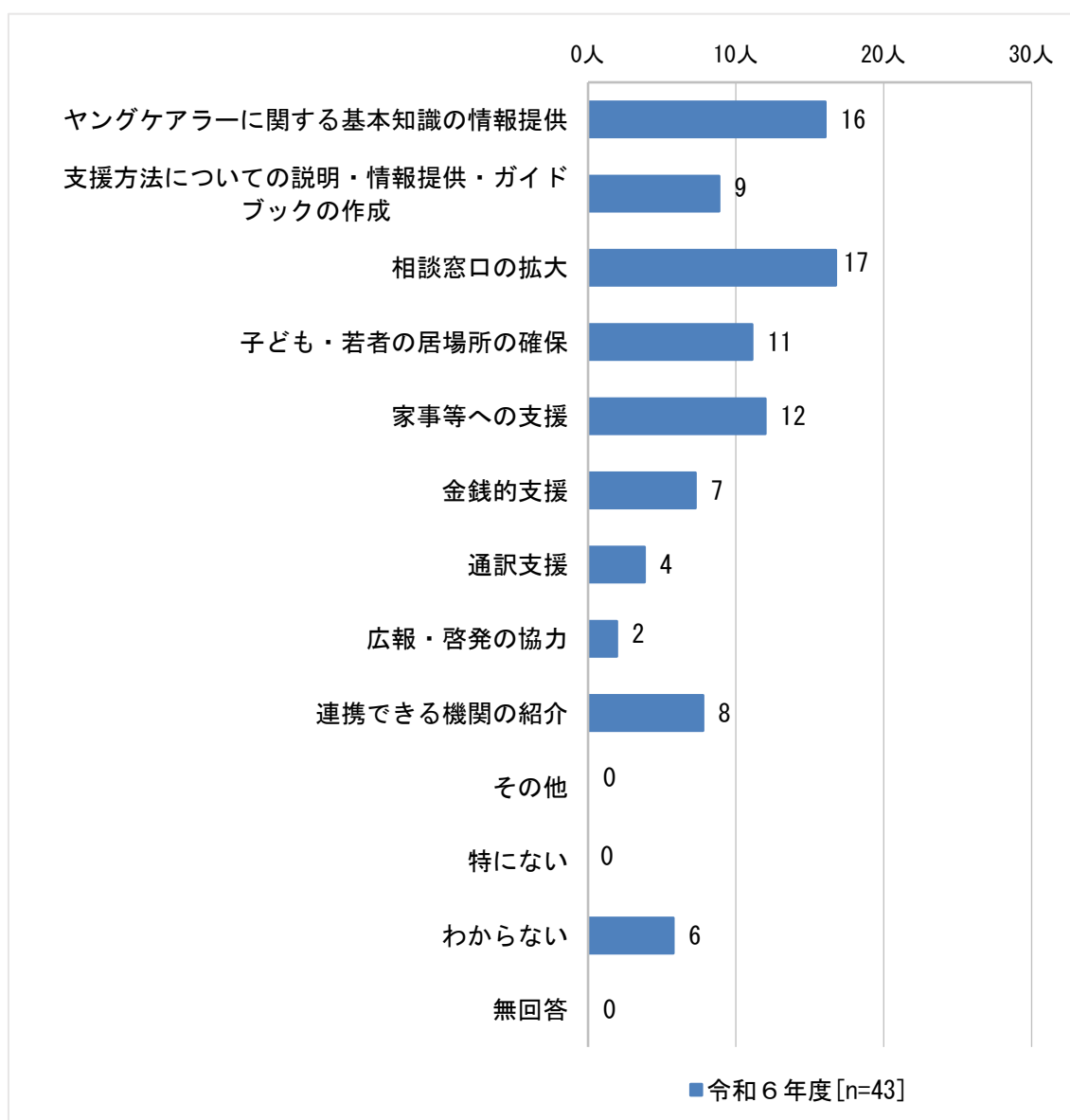
図表 28 地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方（複数回答）



（２０）地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援

「現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるもの」があると回答した方に、その活動において、ヤングケアラー支援を行うために行政からの支援として必要なものを聞いたところ、「相談窓口の拡大」（17 人）、「ヤングケアラーに関する基本知識の情報提供」（16 人）、「家事等への支援」（12 人）、「子ども・若者の居場所の確保」（11 人）が高くなっている。

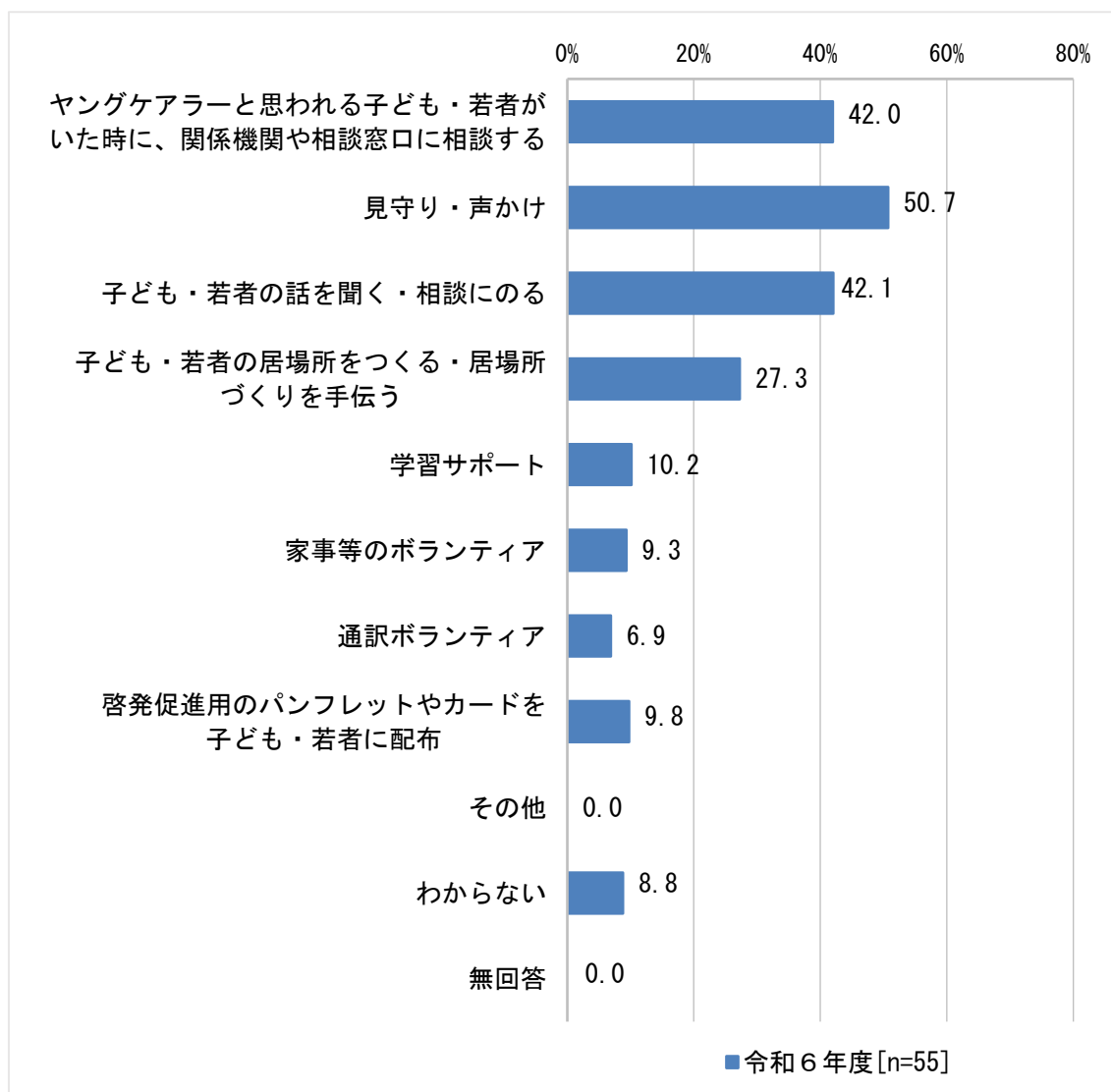
図表 29 地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援（複数回答）



(21) 今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること

「現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるもの」があると回答した方に、今後、その活動において、ヤングケアラーのためにできることを聞いたところ、「見守り・声かけ」(50.7%)、「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」(42.1%)、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」(42.0%)が高くなっている。

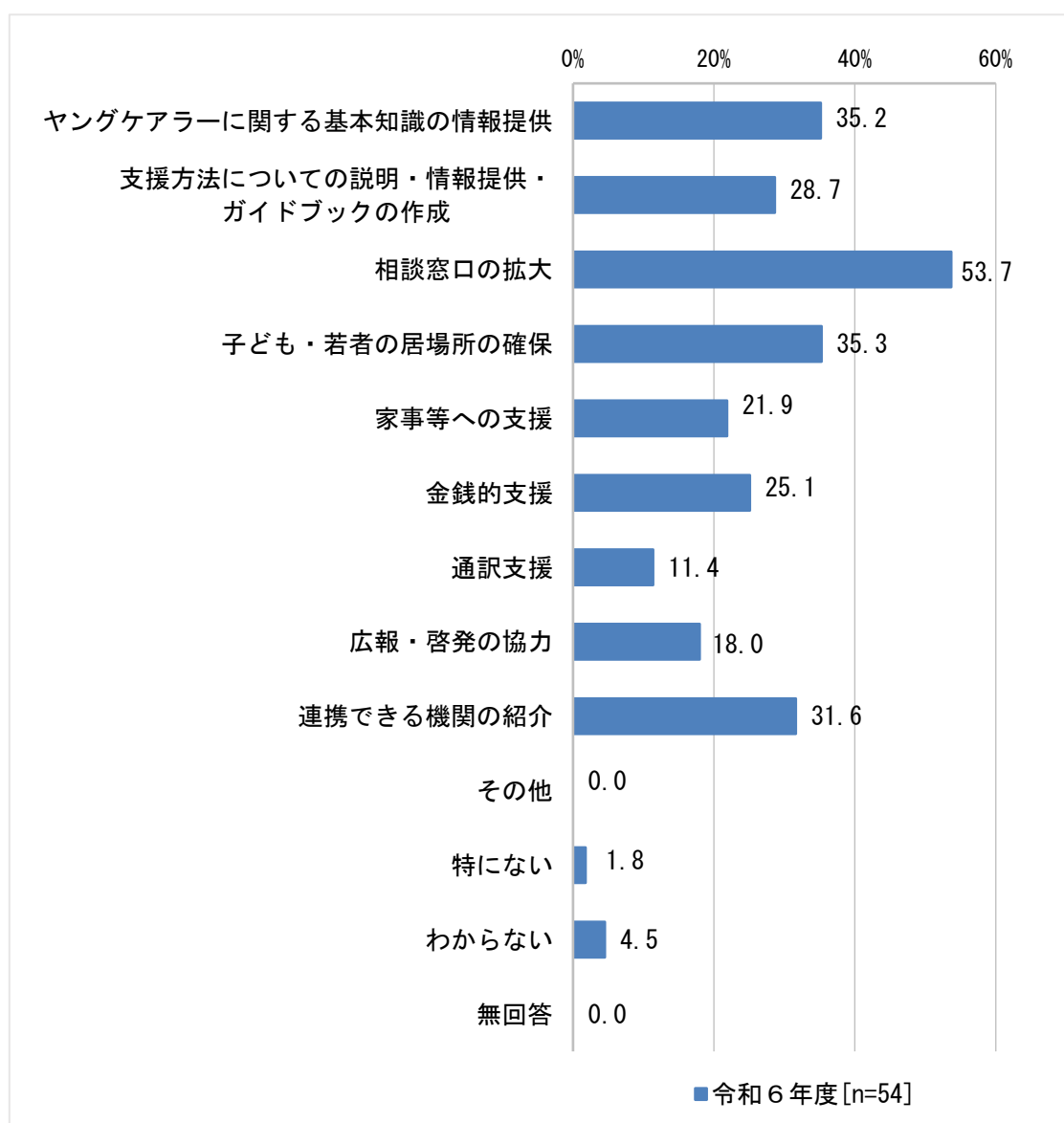
図表 30 今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること(複数回答)



（２２）今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援

「現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるもの」があると回答した方に、今後、その活動において、ヤングケアラー支援を行うために行政からの支援として必要なものを聞いたところ、「相談窓口の拡大」（53.7%）、「子ども・若者の居場所の確保」（35.3%）、「ヤングケアラーに関する基本知識の情報提供」（35.2%）、「連携できる機関の紹介」（31.6%）が高くなっている。

図表 31 今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援（複数回答）



（２３）ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援

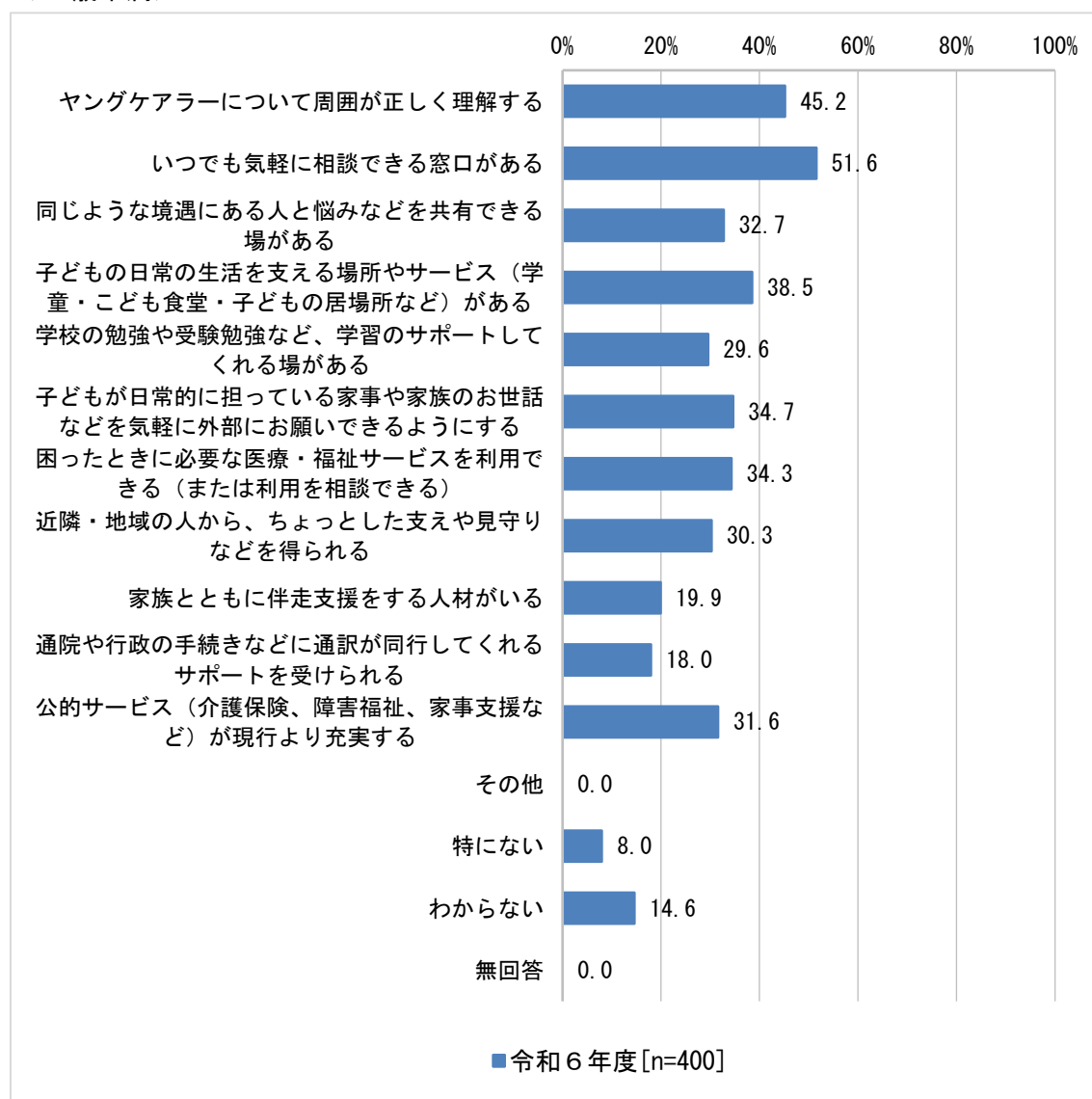
ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援については、18 歳未満では、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」（51.6%）、「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」（45.2%）、「子どもの日常の生活を支える場所やサービス（学童・こども食堂・子どもの居場所など）がある」（38.5%）が高くなっている。

18 歳以上では、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」（49.9%）、「困ったときに必要な医療・福祉サービスを利用できる（または利用を相談できる）」（42.6%）「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」（42.0%）が高くなっている。

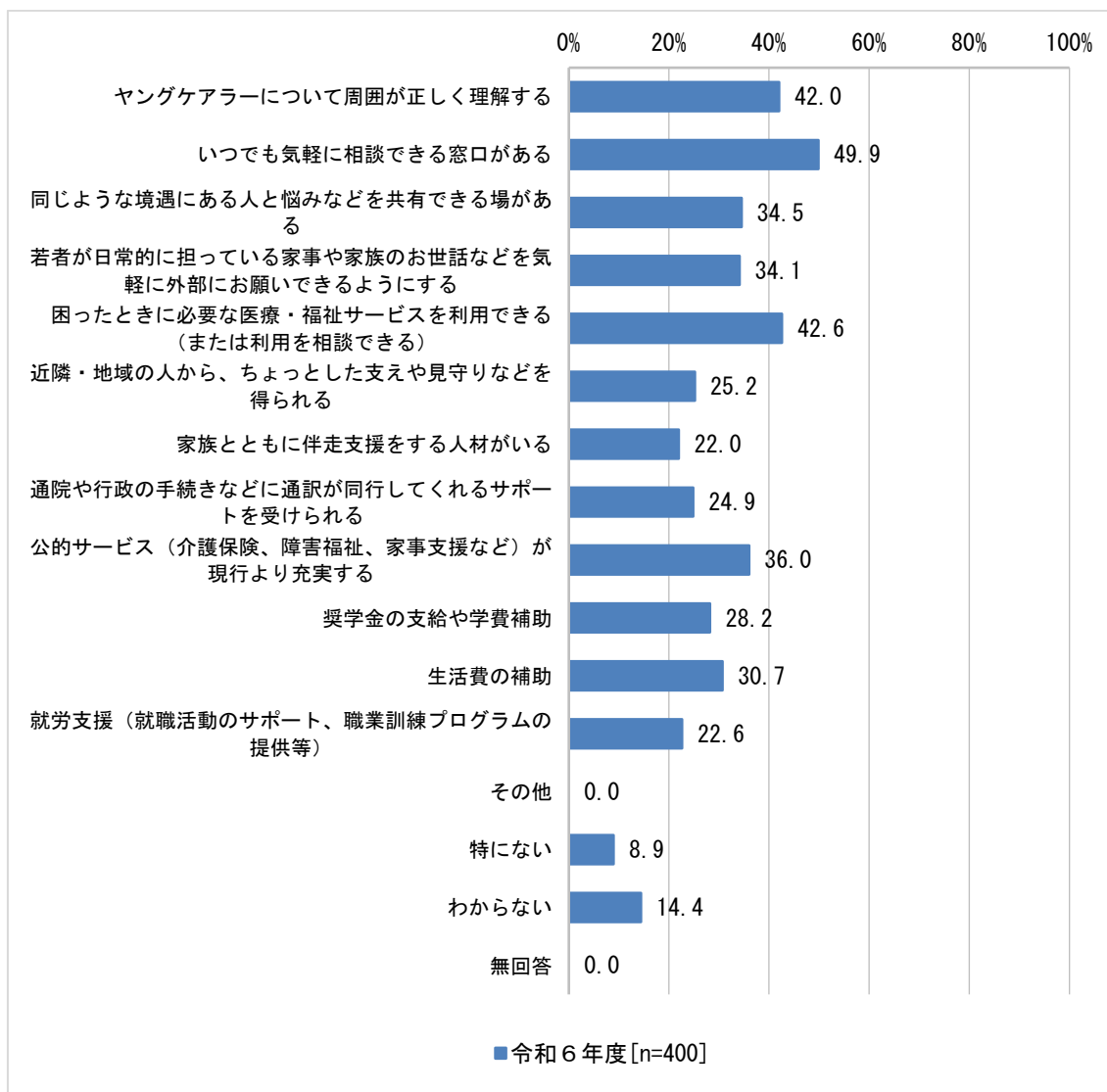
一方、18 歳以上では、「通院や行政の手続きなどに通訳が同行してくれるサポートを受けられる」が増加している。

図表 32 ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援（複数回答）

<18 歳未満>



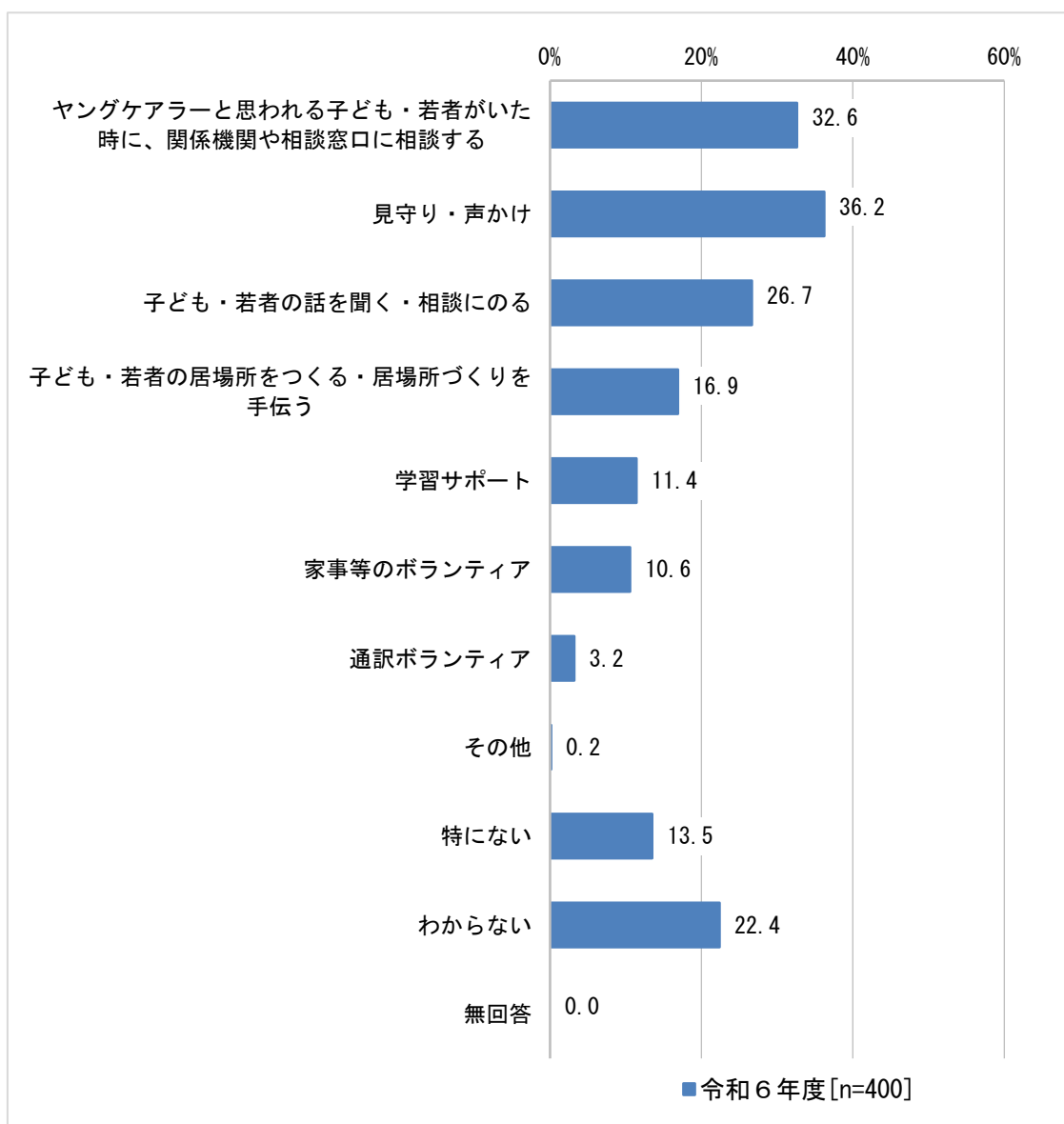
<18 歳以上>



(24)「ヤングケアラー」支援のためにできること

「ヤングケアラー」支援のためにできることとして、「見守り・声かけ」(36.2%)、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」(32.6%)、「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」(26.7%)が高くなっている。

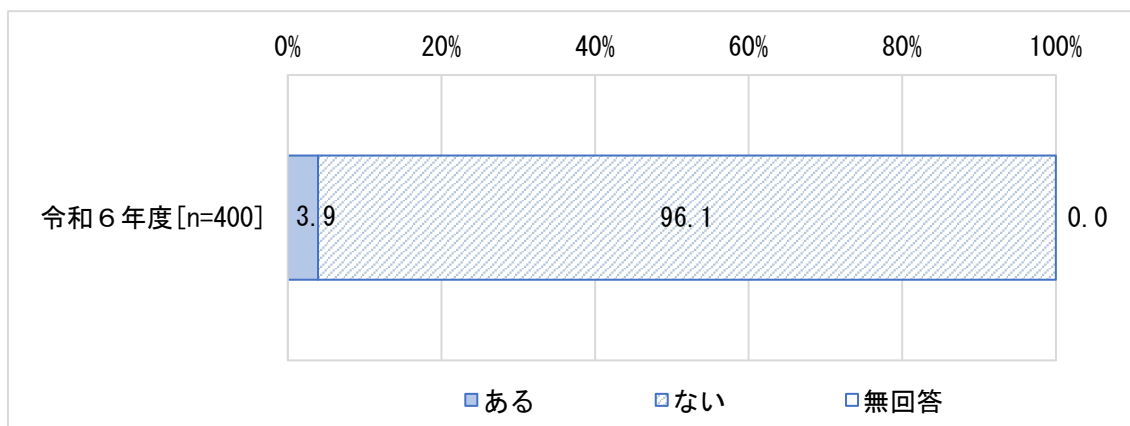
図表 33 「ヤングケアラー」支援のためにできること（複数回答）



(25)「山梨コネクトヤングケアラー」の視聴の有無

山梨県の TikTok におけるヤングケアラーにまつわる短編動画の視聴の有無は、「ない」が 96.1%、「ある」が 3.9%となっている。

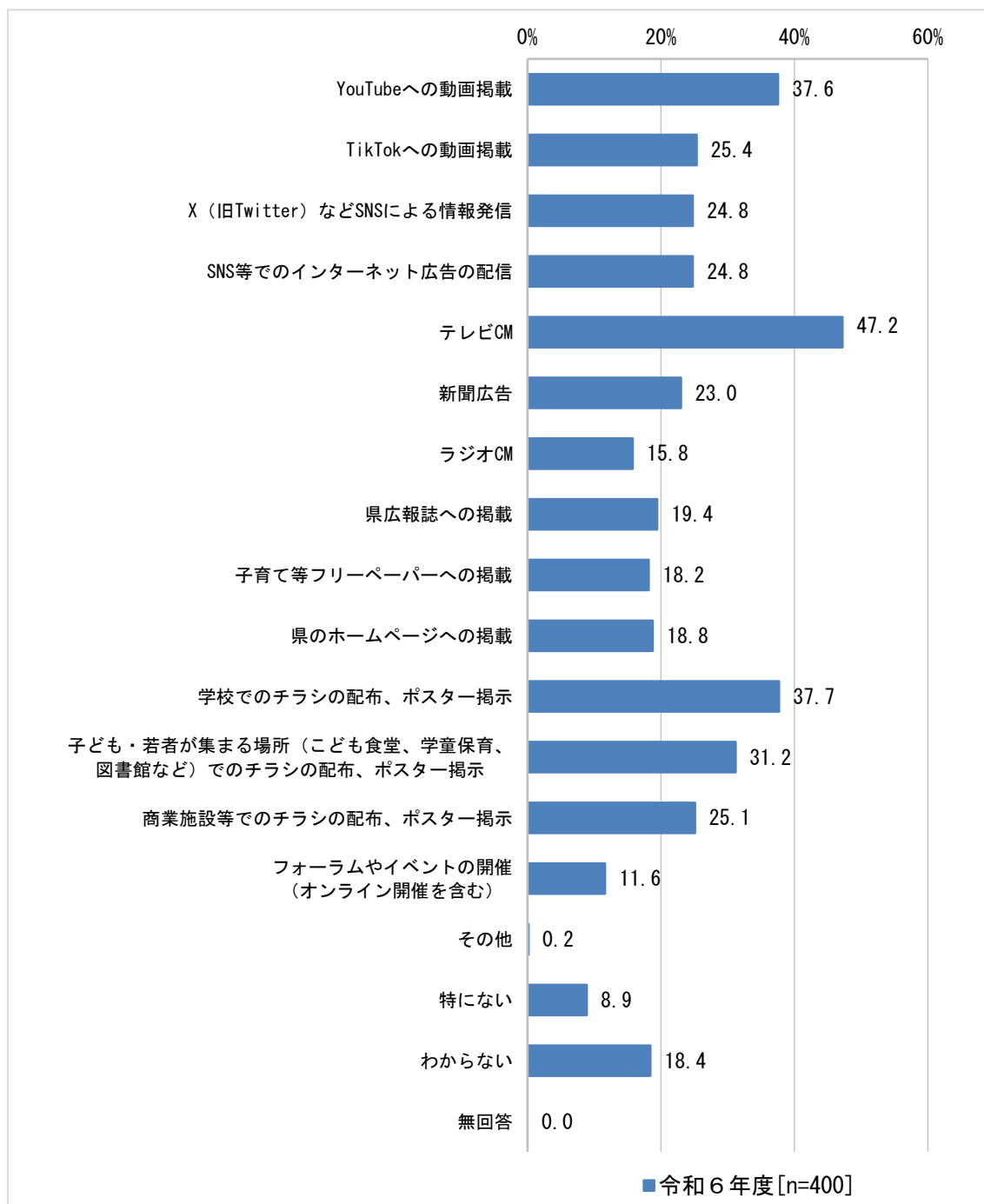
図表 34 TikTok【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラーの視聴の有無



（２６）啓発活動として効果があると思われる取組

山梨県の啓発活動として効果があると思われる取組としては、「テレビ CM」が 47.2%と最も高く、次いで「学校でのチラシの配布、ポスター掲示」（37.7%）、「YouTube への動画掲載」（37.6%）となっている。

図表 35 啓発活動として効果があると思われる取組（複数回答）



(27) ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること

ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われることについて聞いたところ、以下のような意見があった。

図表 36 ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること
(自由意見)

「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること（主なもの）
＜「ヤングケアラー」の認知・理解促進＞ ・まずは言葉の意味を知ってもらうことから始めた方が良い ・もっと周知することが大切。学校の授業として取り入れる ・周囲の理解が必要で、助けて欲しいと言える環境づくり ・周りの友人と同じように行動できず孤独感を感じているので、相談できる人や友達 の理解が必要 ・SNS やアニメなど、若者が情報に触れやすいコンテンツを利用してなるべく多く の人に認知をしてもらう ＜「ヤングケアラー」本人が支援の情報を得やすい発信＞ ・学校や友人にも隠そうとしたり、誰も自分の状況を分かってくれないと諦めてい たり、そもそも問題だと思っていないこともあると思う。学校、保育園、学習塾、 スーパー、ドラッグストア、コンビニなど、こどもが訪れる場所でこどもが正しい 情報を受け取れると良い。信頼できる大人とつながれることを願う ・相談しても良いんだよという環境を作ってあげる。特に若い時期に学校で全体へ 向けて発信することが重要 ＜気軽に相談できる手段・相手・場所＞ ・ヤングケアラーの当事者が気軽に相談や支援要請ができる環境が、もっと整えば 良い ・周囲が助けることが出来るように、相談できるコミュニティが沢山あれば良い ・周囲はヤングケアラーと気づきにくいところもあるので、学校や、スーパーなど の近くなど身近なところに相談できるところがあると良い ＜周りの大人が気づくこと＞ ・気づいてあげるのが、一番。こどもは、自分ではヤングケアラーだと気づいてい ない場合が多いみたいなので気づかせてあげる事も大事 ・ケアラー本人は自分からなかなか声を上げることができないので周りが気づく体 制が整えられればいい ＜見守り・声かけ＞ ・近くに該当者がいないので、正直ピンとこないが、もし自分が関わるところでい たら、声かけからすると思う。出来ることはあるか、聞かせてもらいたい

＜学校での対応＞

- ・学校など子どもの身近に相談出来る場所が必要
- ・自分がヤングケアラーだと知られたくないと思うので、学校や民生委員が学生の家族構成を熟知し、さりげなく観察支援する

＜行政の支援＞

- ・自治体などがそのこどもや親に対してきちんとサポートしてほしい。金銭面や、家事サポートなど

＜地域の支援＞

- ・自治会活動を緊密にしてコミュニケーションを図ることが大事
- ・地域で見守って必要なことを支援する

＜経済的支援＞

- ・経済的に苦しいことがほとんどだと思う。支援の手続きを代わりにしてくれる大人が必要

＜家事・介護等の支援・学習支援＞

- ・金銭的援助ではなく、自治体のサポートとして、家事や育児、介護のサービスを充実することが必要
- ・家事や介護に全面的に支援をすることと、家庭のことで勉強に遅れが生じるかもしれないので学習のサポート、普通の学生が行えるような部活やサークルへの参加が出来るようにすること

＜専門的人材による支援＞

- ・本人だけでなく、家族全体を支えないと変わらない。家族が抱える問題点の本質を見抜けるような専門職が必要。数年で異動しては意味がない

＜家族支援＞

- ・こどもに見てもらっている方の福祉の充実が必要
- ・ヤングケアラーになる家庭環境から変えていかねばいけない

＜支援が難しい、信頼が必要＞

- ・家の中の事を他人に知られたくない思いがあると思う。信頼をされることが大切

＜その他＞

- ・声掛けや居場所づくりなどが必要
- ・就業支援
- ・ヤングケアラーの問題だけでなく 老老介護も課題になる。福祉全体に目を向ける必要がある など